

メッセージアウトライン

マタイ 1:1 ~ 17「イエス・キリストの系図」

神によって最初に造られた人間アダムとエバは罪を犯し、人間は神のさばきを受けて死すべき者となり、この世界は呪われたものとなった。創世記 3:17~19 アダムとエバの子孫であるすべての人間は皆罪の性質を持っている。それゆえ人間は皆神のさばきのもとにある。ローマ 3:23 しかし神はそのような人間を見放すことはなされず、救いの計画を用意された。

神はまず人類の歴史の中でアブラハムという人物を選ばれた。(1 以下) 今から約四千年前のこと。このアブラハムからイスラエル民族が形成されてくる。

神は信仰を持って従ったアブラハムと契約を結ばれた。創世記 12:1~4 地上のすべての民はこのアブラハムの子孫として来られるイエス・キリストによって祝福される。つまり信仰によって罪から救われることができるのである。

アブラハムが百才、妻のサラが九十才の時に神の約束によって子どもが生まれる。この子がイサクである。創世記 17:17~19,21:1~7 アブラハムの生涯には色々な失敗もあったが常に神により頼みつつ歩んだ生涯であった。このようにしてアブラハムとの契約は子孫に受け継がれていく。

ダビデ(6)の時代は今から約三千年前。彼は羊飼いの少年として育ったが神は彼を選ばれ、イスラエルの初代の王サウルに仕えるようになった。やがてサウルは猜疑心から自分より人望があるダビデを殺そうとするようになる。ダビデは長い間逃亡生活を続けるが、やがてサウルがペリシテ人との戦いで戦死するとイスラエル人は彼を王として迎えるようになる。彼は周辺諸国との戦いに勝利し続け、イスラエル王国を確立する。これはすべて彼の信頼する神の助けと導きがあったからこそできたことである。しかし、そんな彼が誘惑に負けて、部下ウリヤの妻バテシェバと姦通し、ウリヤを戦場で死なせ、彼女を妻のひとりとして迎えるのであった。サムエル 11 章

主は預言者ナタンを送ってダビデの罪を指摘し、ダビデは悔い改めるがバテシェバが産んだ子は死ぬ。サムエル 12 章 ダビデはほかにも何人かの妻があり、子供たちもいたが、この後バテシェバとの間に生まれた男の子ソロモンがダビデの後継者として神からの契約を受け継ぐのである。

このソロモンの死後、イスラエルは北のイスラエル王国と南のユダ王国とに別れる。ダビデの血統はユダ王国で続いていく。そしてさらに四百年ほど時代が下るとユダ王国は神への不信仰と偶像礼拝の結果としてバビロンによって滅ぼされ民はバビロンへ捕囚となって連れていかれ、七十年の後主の恵みによってようやくユダの地へ戻って来て国を再興するが、かつてのダビデ、ソロモン時代のような栄華と勢力は見られなくなった。さらに時代はペルシャ、ギリシャ、そしてローマ帝国の支配する時代となる。それが 12 節以下のこと。

そのような中でも主はアブラハムと結ばれた契約を忘れられることはなく、ダビデの子孫も絶えることなく続いていた。そして.....

「ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった」(16) この時のヨセフは王ではなく大工であった。アダムとエバ以来の神の救いの計画はこのようにしてついに実現するのである。

1. 神はご自身の救いの計画のために立派な人ばかり選ばれましたか。